

2023年度 16期生自然体験・環境教育班活動報告

活動メンバー：5名、担当教員：遠藤 知二 非常勤講師、文責：人間科学部 ESD 推進室

「地域の方々に自然に触れ合う楽しさを知ってもらう」ことを目標に活動を行いました。

連携する NPO 法人「こども環境活動支援協会 (LEAF)」の方々からのアドバイスをいただきながら、食品ロス問題や自然環境への造詣を深めるイベントを企画しました。

●西宮の自然環境について知る●

まずは西宮の自然環境について知ることから始めました。大学の最寄り駅近くで行われている「門戸井戸端会議」に参加しました。住人の方からはゴミの分別などゴミ問題に関する意見が多く挙がりました。

次に西宮市役所 環境企画課の方へも取材させていただき、西宮市のゴミ問題を含む自然・環境の現状や課題、また実際に行われている取り組みについてお伺いしました。これらの取材した内容は SNS (Instagram) に投稿し、多くの方へ西宮市の自然環境について知ってもらうきっかけ作りをしました。

●神戸女学院の自然環境について知る●

学生にとって一番身近な西宮の自然環境を知ることができる場所は本学です。授業前の時間を利用して学内の自然探索を定期的に行いました。担当教員である遠藤先生は女学院で長年、昆虫や植物について教鞭取られていた先生です。自然探索を通じて遠藤先生から幅広い知識を教えてくださいました。季節によって移り替わる動植物の様子を実際に見たり触ったりすることで、イベントの内容を模索しました。



●野菜で身近なものを染めよう with 大学生

～自然ふれあいワークショップ～●

日時：2023年12月23日(土)12:30~16:30

場所：神戸女学院大学

対象：西宮市在住の中学生以上5名

学生スタッフ：5名

イベントは4部構成に分かれており、それぞれ目的を持った内容としました。最初に行なわれた「野菜染め」は、普段、野菜の食べられない部分など捨てられることが多いものを使用した、染物体験になります。野菜のヘタや皮を使えば廃棄物を減らすことができ環境にやさしい取り組みに繋げてほしいという目的のため実施されました。

実施するまでに何度もリハーサルを行いました。色がなかなか出ないことが続き、試行錯誤を繰り返しながら最良な方法を編み出しました。

この「野菜染め」は身近にある材料で染色ができるため、方法をまとめた資料も作成し、参加者へ配付しました。



玉ねぎの皮で染色した布

次に、学内を回る「自然散策」を行いました。定期的に行った自然探索を活かし作成した、自然散策マップなどの資料を用いて行いました。実際に見て触れるなど五感を研ぎ澄ますことで、自然の新たな見方を知ってもらえたと思います。





自然散策

「キャンパス内を散策して自然と触れ合おう」

■内容

岡田山キャンパス内を散策し、植物を見てまわります。今回ご用意した自然散策では、私たち学生が事前に考えたコースと一緒にまわり、見るだけでなく実際に植物の葉の匂いを嗅いだり木の実を食べたりしていただきたく考えています。

■目的

私たちがイベントを開催したいと思った目的の一つに「自然とふれあうことができる場をつくり、自然を身近に感じてほしい」という目的がありました。そして、岡田山キャンパスには多様な植物が見られるため、この場所で自然散策を行って自然とふれあってもらい、自然について考えるきっかけを作ることができればと思います。

■ピックアップした植物

今回は、主に特徴的な匂いのする葉を食べることのできる木の実をもつ植物をピックアップしました。見るだけではなく実際に手に取って、自然を肌で感じていただければと思います。

～木の実～



シャヤンボ
Vaccinium bracteatum

- ツツジ科 スノキ属
- 花期は7月頃で白色の鐘状の花が咲きます。果実は黒紫色に熟すと食べることができます。花も果実もブルーベリーに似ており、ブルーベリーと同じ仲間であることから「日本のブルーベリー」と呼ばれています。



センダン
Meila aspidarach

- センダン科 センダン属
- 花期は5-6月頃で淡紫色の花を咲かせ、花はパナヤやチョコレートのような甘い香りがし、鳥や虫がよく集まっています。果実は、主にヒヨドリ、ムクドリ、カラスに好んで食べられ、果肉にはオレイン酸やパルミチン酸が含まれており、卵に塗り込むとむしや鳥が食べにくくなる効果があるとされています。



クロガネモチ
Ilex rotunda

- モチノキ科モチノキ属
- 庭木や公園などに植えられているのがよく見かけられます。果実は11-2月頃に真っ赤に熟し、食べることができますが、鳥などの野生動物は好んで食べません。木の実を好む鳥でも、樹に餌がなくなってしまうときにだけ食べると言われています。

自然散策用資料 一部

自然散策後は、グループディスカッションを行いました。内容は「普段心がけている環境に配慮した行動」「関心のある自然・環境に関するニュース」と日常生活で自然環境に目を向けるきっかけとなる内容にしました。参加者全員が発言できるように学生もディスカッションに参加し、活発に話し合いを行いました。

最後に植物を飾り付けに利用したクリスマスリースと木のオブジェ作りを行いました。材料となる木は学内で伐採された木材を再利用しました。また、飾り付けの植物は神呪寺の農地で採集されたもの等を使用し、植物を利用することで自然に触れる楽しさを知ってもらえたと思います。



クリスマスリース作り



木のオブジェ作り

イベントを実行するにあたって、班で何度も話し合い模索してきました。LEAFの小川先生や学内の先生方のお力をお借りしながら、実施に向けての知識を深めていきました。イベントの企画から実施までのプロセスの大変さを痛感しつつも、計画が進む楽しさを知ることができました。ご協力いただきましたLEAFご関係者様、先生方に深く感謝申し上げます。